

まなびの森

校長通信 第11号 R2.10.9
廿日市市立吉和小・中学校
校長 森岡 勝司
TEL(0829)77-2010

教育目標「夢や目標をもち、果敢に挑戦し、自己実現する児童生徒の育成」

10月(神無月)を迎え記念植樹を行いました！めざすは2030年！

昨日、「まなびの森 吉和学園 小中一貫教育2020記念植樹祭」を行いました。これは、吉和地域のある方からご提案いただき、日本植木協会と浜田樹苗園の関係者のご尽力で開催する運びとなりました。

折しも、本校は今年度、国立教育政策研究所から教育課程研究指定校として研究指定をいただき、総合的な学習の時間を中心に、SDGs（持続可能な開発目標）を視点とした地域（吉和）づくりに貢献する学習を行っています。地球温暖化という地球的規模の課題に対しても、「吉和の森」の間伐や植林がいかに大切なことであるかを学んでいます。そのような背景の中、記念植樹という形で学習の場を持ちました。私からは、記念樹の成長と共に、私たちも夢や目標の実現に向けて頑張っていきたい、そして10年後の2030年に再び、吉和学園に集い合いたいという思いを伝えました。植樹祭の私の挨拶（要旨）を紹介いたします。



今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、東京オリンピックをはじめ、ここ吉和の地におきましても、吉和大運動会、吉和夏まつり、敬老会は中止、文化祭も縮小されました。それでも、吉和学園の児童生徒の皆さんと先生方は、今まで経験したことのないこの非常事態の中で、保護者や地域の皆様に支えられながら、元気一杯、学習や部活動に頑張っています。私たちは、コロナウイルスに負けずに、新しい生活様式でこの困難を乗り越えていこう努力しています。

そういう意義ある年ということで、植樹祭をすることにしました。植樹、つまり木を植えるということは、「命を植える」という意味があります。命を植えて育てるということは平和をつくる考えにもつながります。さらに、木を植えるということは地球温暖化を止めることにもつながります。

ここに参加している皆さんが10年後、20年後に吉和学園を訪れる日には植えた木も大きく成長しているでしょう。その時には、「この木はコロナウイルスの感染にも負けずに乗り越えた年に植えたよね。」と語り合うことでしょう。まずは、今日より記念樹の成長を楽しみにしながら、私たちも夢や目標の実現へ向けて頑張っていきましょう。そして10年後の2030年に、再び集い合いましょう。